

デモンストレーションとしてのスポーツ行事に見る、 国体のスポーツレガシー

Is the demonstration program the legacy of National Sports Festival?

1K03B113-6 関本 ゆう

指導教員 主査 木村和彦 先生 副査 宮内孝知 先生

【緒言・研究目的】

近年、スポーツイベントが都市にもたらす遺産、すなわち“スポーツレガシー”に対して、注目が集まっている。特に、メガ・スポーツイベントの開催によって、開催都市や地域にもたらされる“遺産”は、施設などのハード面からツーリズム等に絡んだ経済効果、地域スポーツへの参加喚起やあるいは交流等による個人的な豊かな経験・思い出までと、多岐に渡る。

一方で、日本におけるメガ・スポーツイベント、国民体育大会においては、わが国のスポーツシーンに果たせる役割に疑問の声が上がり、とりわけ、全国都道府県持ち回り方式であることが、地方の財政を圧迫し、多大なる負担を強いているという指摘が後を絶たない。また、それと同時に、国民レベルでのスポーツ振興、特に地域市民スポーツの振興に対して尽力すべきとの見解が数多く寄せられている。

【研究目的・方法】

これらの現状を踏まえ、本研究の目的は、国体の二巡目から夏季・秋季大会に併せて行われている開催地域住民参加型の行事、「デモンストレーションとしてのスポーツ行事（デモスポ行事）」に注目し、各大会で開催されているこれらの行事が地域スポーツ（開催競技）に与えた影響を調査することによって、国体がもたらした遺産の有無と現状の一端を明らかにすることである。同時にまた、本研究が、国体の今後の活動展開や展望の参考となることを期待したい。

1. 調査対象：1996年から2005年の10年間において、国体デモスポ行事を開催した市町村。151市町村、63種目、計179件。
2. 調査方法：電話による口頭質問。状況によってはFAX、メールによってアンケートを送付、メールや電話で回答を得た。
3. 調査期間：2006年11月7日～12月14日
4. サンプル数：172

【結果と考察】

調査の結果、デモスポ行事開催前後における開催競技の活動変化には、いくつかの特徴があることがわかった。特に顕著に見られた活動変化や注目すべき活動展開など、

大きく3つの変化をとりあげ、各活動変化・展開について、具体的に事例を参照する。

(Ⅰ) 国体後に、引き継ぐ形で大会を、あるいは国体メモリアル大会・記念大会を開いている（開いていた）。(9.9%)

(Ⅱ) 国体が契機となって、開催競技活動に積極的な変化が生まれた。(19.8%)

(i) 国体デモスポ行事が、新しい競技の普及の契機となった。(7.0%)

(ii) 国体デモスポ行事が、競技団体など今後の活動基盤となる組織設立や、より強固な統率組織を作る契機となった。(11.6%)

(iii) 元々普及していた競技を基盤に更にニュースポーツが普及した。(1.7%)

(Ⅲ) 国体の前後で、競技活動における変化は特になかった。(58.7%)

- ・ 国体以前から競技の普及があった。(49.4%)

- ・ 国体前後で競技の普及はなかった。(9.3%)

デモスポ行事開催の前後で、競技活動に変化は現れなかったと回答した市町村が約60%を占め、国体が一行事として処理され、地域スポーツ振興に対して特に大きな積極的作用を及ぼしていないことがわかった。しかし一方で、国体を契機に競技活動が生じたり、あるいは体制的な競技環境が整った市町村も、約30%存在した。

その他、グラウンド・ゴルフの台頭と、ゲートボールからグラウンド・ゴルフへの競技者移行という特徴的かつ顕著な変化が近年、各地で生じていることがわかった。地域スポーツ振興において、生涯スポーツとしての普及や今後の発展が期待される。

【まとめ】

以上、3割については、記念大会の開催や組織体制の整備など、スポーツ環境の整備に対するプラスの影響が見られたが、国体を契機とした新規スポーツの普及という面では、7.0%という限定的な効果しか得られていなかった。今後、国体の遺産として、地域における新規スポーツの普及と発展への貢献が望まれる。